

【自身が選ばれた解散総選挙の争点とその理由】

m：立憲民主党の松尾あきひろでございます。よろしくお願いいたします。私が解散総選挙の最大の争点と考えているのは、(ここにあげられた10項目の)⑤になるんですかね、消費税使い道の見直し、我々立憲民主党は、消費税増税について凍結すべきの意見を持っておりますので、それを含めて5番と考えております。形式的には、安倍首相、解散するときに国民の真意を問う争点として、消費税の使途変更、これは言っておりますので、当然それが理由のひとつです。もう一つの実質的な理由としては、消費税増税の是非、その使い道の変更、日本経済に与える影響、国民の皆様と与える影響、非常に大きなものですから、当然この総選挙の中で議論すべきと思っています、以上です。

【クロストーク：辻候補より質問】

「今後、財源をどういう形で、消費税の増税をしないのであれば、どう考えているのか」

m：ここ数年来、年々法人税については減税をされております。その一方で法人の利益、特に大企業を中心に利益はあがっておりますので、消費税の増税見直し、法人税の税率の見直し、それは増税も含めてというのを考えなければいけないと思っています。それとアベノミクスを通じてますます裕福になった富裕層に対する課税というもの、累進課税の強化というのは考えています。それ以外にも金融取引税の課税だったり、富裕層に対する課税を考えていかなければならない、それによって十分にまかなえると思っております。以上です。

【クロストーク：鳩山候補へ質問】

m：鳩山候補に質問します。このしがらみのない政治の実現というのは、私も全く同意見ですし、恐らく辻候補も同じじゃないかなと思っています。政治は国民の為にされるべきであって、特定の人の為特定の団体の為にされるべきでないと思っています。そこで質問なんです、それ多分、全候補全国民が思っている事であって、この設問の争点にならないと思っているが、それをあえて争点と考えている理由を教えてください。

【子育て・教育の最大の課題は何か。またその解決策はどう考えているか】

m：今の日本の社会における子育て教育の最も大きな問題・課題は、私はやはり待機児童の問題だと考えています。どのような政策で解決すべきかにおいては、待機児童の受け皿となる保育園幼稚園こども園、これらをきちんと拡大して行って、基本的には望む子供を全てが入所する所ができるそのような体制で拡大する必要がある。その際に、受け入れる施設の問題であったり、面倒をみる保育士の問題、出て来るとしています。一番大きな問題は、保育士不足だと思っている。保育士不足を解消するには、今の保育士の資格を持っているけれども働いていない方がたくさんいらっしゃる。何万もいらっしゃるの、保育士の待遇を改善をしていく事、それは単純に給料をあげるということも待遇改善になり

ますし、保育士も多様な働き方が出来る、保育士自身も子育てをしながら働いていく事が出来るそういった環境を整えていくことによって保育士不足を改善していく。これによって入所を希望する児童全てが入所できるようにするこれが解決策だと考えています。以上です。

m：子育て教育に対する今の大きな課題の解決策としてはないが、今の日本の教育を更に充実させていくために、私が必要だと思っていることは、少人数学級の実現、そして英語教育の充実を考えています。子供の少子化が進んでいるので、子供一人一人に対して密度の濃い教育をしていく事、そして、子どもたちが大人になった時に社会における生産性を向上していく事、それが急務だと思っています。日本がグローバルの世界で、さらに飛躍的していくために、英語の壁というのは、残念ながら今も高いと考えているので、少人数学級をなるべく早期に実現させ、英語の教育を充実させていく、これは教育政策として取り組んでいきたいと考えています。以上です。

【社会保障制度についてどのような制度改革が最重要か】

m：国民負担を増やすか給付を抑制するか、これは両方必要だと思います。もう致し方ない。ただ、国民負担をむやみに今の制度のまま増やしていくと事については、恐らく国民の皆さんも理解を得られないと思っておりますし、給付の抑制についても可能な限り行っていかなければいけない、そのように思っています。給付の抑制についても、単純にお金がないからそれを切り詰める、そういう発想ではなくて、きちんと事実確認をしていったうえで、結果的に給付が抑制される、後は給付の水準・基準というものをきちんと運用を適正に行っていくことによって、結果的に給付が抑制される方法としていく事が望ましいと思っています。それらの給付抑揚政策、公正な給付が実現された後に、国民の方々に負担増をお願いするという事は致し方ないという風には考えています。制度改革の最重要な点は、私は、年金制度改革が一番重要だと考えています。今の日本の社会で、最大の社会不安はやはり年金の問題だと思っています。高齢者についても、自分の年金いつまでもらえるか、不安に感じていると思いますし、私も含めた我々の世代を含めた現役世代、自分が高齢者になった時に、きちんと年金を受給できるのか、そのような不安を持っています。きちんと現役世代を含めて納得ができる、今の高齢者を切捨てることのない抜本的な年金制度改革を考えています。以上です。

【クロストーク：辻候補へ質問】

m：私は年金抜本的改革を必要と話したが、私は賦課方式から積立方式に考えています。その上で辻さんにお伺いしたいが、いまいち、説明がよくわからなかったのだが、民間の力を活用して、ポートフォリユーを検討するというのをおっしゃっていたが、これ結局、老後の社会保障の設定を自己責任で自分を行うべき、という主張なんですか？

【中小零細企業の振興にとって、これが必要という持論】

m：はい、中小企業が海外にバックアップするというのは、辻さんと全く同意見です。それは私自身、かなり高いハードル高いとっていて、それはそれで積極的にすすめるとして、中小企業の振興において、需要面に個人消費伸び悩みについては、先程申し上げたが、消費税の増税によって、消費の冷え込みが非常に強く懸念されておりますので、その見直しは中小企業の振興という観点からも絶対に必要だと思います。供給面の人手不足についても、今の日本の労働市場の流動性が低い事によって、人手不足が生じると思っている。中小企業の方々、採用したいけれども、労働法制を前提にすると、なかなかお試しで多くの人材を採用することが抵抗がある方が多くいらっしゃると思っている。今の派遣の労働者の方々を採用した後に一定年限2年でも3年でもいいが、一定で区切り、正社員に雇用、転換するこれをきちんと義務化する。今でも特定の業種では行われているが、これを一般的に義務化をして、それを選択するような事を防止するような方策をきちんと取るといった派遣の派遣労働者の正規雇用、非正規雇用の方々に対する労働法制、制裁がこれを踏まえる事によって、人材面の供給面がクリア出来ると考えている。以上です。

【多様性の調和性についての持論】

m：先程、辻さんから保守・リベラルという話がありましたが、私もリベラル派、自由を求めている。自由は何かというと、みんな違って、みんないいということ、これが自由なんです。何をやっても皆受け入れましょう。私はこの多様性、ダイバーシティに関しては積極的にすすめるべきと思っています。ただここで言っている外国人や LGBT に関していうと、これを取立てて取り上げて議論すること自体がおかしいのであって普通にしていればいい。普通に接すればいいんですよ、特別に何もしなくていいんですよ、そういう考え方は世の中に広まる事が重要だと思っています。実は、私の法律事務所に、LGBT の子、性同一性障害の子が働いていたんですが、どういう風に扱ったらいいと聞いたら、普通にしてくれればいいと言われた。特別扱いなんかしないでいいですよ、普通なんだから、こういう答えだった。これが普通なんだよという事を世の中に人が認識していく、これを手助けていく、それが政治でやらなければならないと思っている。その一方で障害者の方は事情が全く違う。この方たちはハンディキャップを負っている訳ですから、他の方々と、健常者という言い方が正しいか分からないが、健常者と同じように、対等に、同じ条件で、色々な事が出来るようにサポートしていく、これは別の次元として必要だと考えている、以上です。

【観光政策、訪日外国人などの政策】

m：観光、訪日外国人に対する政策なんですけど、私、年々増えている観光客の状況、今後、日本はもっと増やしていこう、そういう政策をするにあたって、私は官公庁・観光省

といったそういった省庁を統合して一元的に、様々な政策を出来るようにすべきと思っている。一元的にこの日本の PR であったり、受け入れの外国人対応のハードウェアの整備・施設の整備、そしてソフト面の整備、辻さんがおっしゃたボランティアをどうするのか、体験型の観光するにあたっては、こういったスポットがいいかというのを備えていく。そして受け入れる人々、日本人側の受け入れ対策の整備、こういったものを一元的にすすめられる体制を作っていくことが、今後増えることが想定される外国人の対応にどうしても必要だと思っている。そこで、外国人がこれから色んな外国の方が来ると、生活の風習も違う、考え方も違う、そういった色んな方がいらっしゃいます。もちろん郷に入れば郷に従え、そういった言葉もありますけども、日本人の方でも先程の多様性の話にも繋がるが、様々な外国の方が来て、様々な考え方を持っているんだという風な理解を深めた上で、逆に外国の方に対しても日本人のやり方というのを理解してもらって、外国人と日本人の交流、軋轢がうまな仕組みを作っていく、そういった政策をつくっていくことが大事と考えている。以上です。

【クロストーク：辻候補から質問】

「松尾さん自身は共産党の安全保障あるいは自衛隊の考え方に関して、どういう考えをもっているか？」

m：まず、共産党と一緒にやっているのではないので、双方、党と党の間で、別に共産党と政策協定を結んだり、連携をしている訳ではない。そこで私から共産党の政策において申しあげる立場にはないと考えている。共産党さんにはそれぞれの考え方があると思っているので、特にいいとか悪いとか、特にございません。以上です。

【クロストーク：辻候補へ質問】

m：辻さんにお話を伺いたい。先程、年金の話の続きなんですけど、積立方式に移行することを辻さんも考えていることをおっしゃっていて、今の時点で、年金の潜在的な不足分が700兆円とか1000兆円とかもっとあると言われていたが、積立方式に移行する際、今の時点で不足を何らかの形で補填しなければいけないと考えている。私はこの分に関しては50年かけても100年かけても基本的には税で補っていくべきと考えている。辻さんの意見をお聞かせ下さい。

【クロストーク：辻候補へ質問】

m：辻さんにお伺いしたいんですが、今、ここ近年話題となっている、民進党の方からも指摘がされている年金運用の問題、GPIFの年金の運用において株式にまわしている割合が高すぎるのではという指摘がされています。私自身は、株式で運用する事自体は、年金の運用という意味においては合理的だと考えているが、その一方で、あまり株式に投資をするGPIFの割合が、GPIF高まりすぎると、日本の株式市場全体に占める株主のGPIFの存

在が高まりすぎると、日本の株式市場を歪めてしまうと考えているが、考えを聞かせて欲しい

【クロストーク：辻候補から質問】

「松尾さん自身が日本の日米安保、憲法改正についてどう考えを持っているのかということを知りたい」

m：ちょっと大きすぎて、一分でなかなか難しい。憲法改正については、私は憲法を改正すること自体は積極的に議論すべきだと思います。私の立場、こんな表現をあまりしないんですけども、憲法を尊重する立場とされている。憲法に憲法改正の規定がある以上、それにのっかって、改正をする、議論すべきと思う。当たり前であり、それは積極的に議論すべきと思う。ただ立憲主義の考え方を損ねたりする事や、いついつまでに期限を定めたりする、2020年までに改正をするという年を区切って改正ありきで改正の議論をするということは間違っていると思います。安保体制については、時間がありますが、日本の国土であったり生命、財産を守る為に必要な事は徹底的にやるべきと思っていますが、集団的自衛権、一般的な意味での集団的自衛権まで認めるというのは私は、疑問は思っています。今の安保法制における集団的自衛権は一般的な意味ではないと思っているので、そこは議論が必要と思っています。

【クロストーク：辻候補へ質問】

m：子育て教育について、辻さんにお話を伺いたい。これもご意見を伺いたい。議論している高等教育の無償化をしている、そうではないという話があります、私自身は高等教育の無償化、大学を無償にして誰でも入れるとしても、そもそもの問題意識である格差の縮小、是正には繋がらないと考えており、反対の立場だが、高等教育に関して無償化をしていく、その他の政策を行っていく事について、辻さんどのようにお考えでしょうか。

【フリートーク】

m：私も、今日、辻さんと実は知り合ってから、かなりの時間はたつが、こうやって政策の事を話し合う議論しあうのは初めて、私の考えも知ってもらいたし、辻さんの考えも知ることが出来、私自身非常に楽しい時間で、非常に有意義な時間を過ごさせて頂いたと思っている。もちろん鳩山さんもこの選挙で一緒に戦っていく。これから政策の議論も今日を皮切りにこれからずっとしていくことになると思うので、色んなご意見、お話、人柄を伺うことが出来、非常に充実している。今の日本、非常に大きな転換点を迎えていると思っています。高度成長期は終わっていて少子高齢化の時代に突入していて、なかなか新しい日本の姿を見いだせないでいる。高度成長期手法のままなんとかしようとしているけど、それでは解決できない、失われた20年になってしまった。今の日本は大胆に改善していかなければいけない。年金改革で言いましたが、それ以外に抜本的な改革をしていかなければ

ればいけない。それを行うのは我々の世代、ここにいる30台、40台の政治を志している政治家の皆さんであり、ここにお集まりのJCIのお若い方々が、抜本的に自分たちの手で日本を変えていくんだという気合い、思いが必要と思っている。この討論会を通じて、私はこの思い、新たに強く思いましたので、非常にありがたい機会を設けて頂き、ありがとうございました。